

平成30年度 地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 財務諸表の概要

1 財務諸表の概要

(1) 貸借対照表

平成31年3月31日における法人の資産、負債、純資産の状況を表示

【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	78.8 億円 (▲3.8)	固定負債	65.6 億円 (▲3.2)
土地	29.6 億円 (±0)	流動負債	9.8 億円 (+0.9)
建物	45.6 億円 (▲3.0)		
流動資産	28.9 億円 (▲2.8)	【純資産の部】	
現金及び預金	22.1 億円 (▲2.8)	資本金	24.9 億円 (±0)
		資本剰余金	48.7 億円 (+1.6)
		繰越欠損金	▲ 41.3 億円 (▲6.0)
計	107.7 億円 (▲6.6)	計	107.7 億円 (▲6.6)

(2) 損益計算書

平成30年度における法人の収益とこれに対応する費用を記載し、当期純損失を表示

収益総額	44.4 億円 (+1.0)
営業収益	43.4 億円 (+0.7)
営業外収益	1.0 億円 (+0.3)
費用総額	50.5 億円 (+2.1)
営業費用	46.5 億円 (+0.7)
営業外費用	2.5 億円 (▲0.1)
臨時損失	1.5 億円 (+1.5)
当期純損失	▲ 6.0 億円 (▲1.0)
当期総損失	▲ 6.0 億円 (▲1.0)

(3) キャッシュ・フロー計算書

平成30年度における現金・預金(キャッシュ)の増減を活動区分別に表示

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1.4 億円 (▲2.4)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	1.2 億円 (+3.8)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 0.6 億円 (▲0.1)
IV 資金増加額	▲ 0.8 億円 (+1.3)
V 資金期首残高	4.9 億円 (▲2.1)
VI 資金期末残高	4.1 億円 (▲0.8)

(4) 行政サービス実施コスト計算書

法人の業務運営に関して、行政サービス実施コストに係る情報を集約して表示

I 業務費用	15.9 億円 (+1.8)
(1) 損益計算書上の費用	50.5 億円 (+2.1)
(2) 自己収入等(控除)	▲ 34.5 億円 (▲0.2)
II 機会費用	0.0 億円 (±0)
III 行政サービス実施コスト	15.9 億円 (+1.8)

※ ()内の数字は前年度との差額を表示

※ 各項目毎において百万円単位を四捨五入しているため、各項目の数値の合計と合計欄の数値が一致しない場合がある。

2 収支の状況

(1) 収支概要

平成30年度純損失……………▲602,488千円 → ▲100,833千円(対前年度差額)
 (平成29年度純損失……………▲501,655千円)

- ・収益については、運営費負担金の増加により、前年度比で約2%の増加となった。
- ・費用については、職員の増加による給与費の支出増及び時間外勤務手当の追給による臨時損失の計上により前年度比で約4%の増加となった。
- ・収支差については、約6億円の赤字となった。

(2) 前年度比収支状況

(単位: 億円)

	H29年度	H30年度	H30-H29	対前年度比	参 考
収益	43.4	44.4	1.0	102%	診療単価 (H29) (H30)
営業収益	42.7	43.4	0.7	102%	入院 37,246円 → 38,742円
うち入院収益	22.8	22.4	▲0.4	98%	外来 11,625円 → 11,746円
うち外来収益	9.9	10.3	0.4	104%	
うち運営費負担金	8.2	9.1	0.9	111%	患者数 (H29) (H30)
営業外収益	0.7	1.0	0.3	143%	入院 61,098人 → 57,711人
うち運営費負担金	0.6	0.6	0.0	100%	外来 85,636人 → 87,590人
臨時利益	0.0	0.0	0.0	-	
費用	48.4	50.5	2.1	104%	一般病床利用率 (H29) (H30)
営業費用	45.8	46.5	0.7	102%	81.3% → 76.8%
うち給与費	27.5	28.4	0.9	103%	
うち材料費	5.7	5.7	0.0	100%	
うち経費	7.6	7.6	0.0	100%	
うち減価償却費	4.8	4.7	▲0.1	98%	
営業外費用	2.6	2.5	▲0.1	96%	
うち支払利息	1.0	1.0	0.0	100%	
うち控除対象外消費税償却	1.6	1.5	▲0.1	94%	
臨時損失	0.0	1.5	1.5	-	
収支差	▲5.0	▲6.0	▲1.0	-	

※各項目毎において百万円単位を四捨五入しているため、各項目の数値の合計と合計欄の数値が一致しない場合がある。

(3) 前年度比収支変動の主な要因

ア 営業収益

 うち入院収益 (0.4億円減) 患者数の減少によるもの
 うち外来収益 (0.4億円増) 診療単価・患者数の増加によるもの

イ 営業費用

 うち給与費 (0.9億円増) 職員の増加によるもの

ウ 臨時損失

(1.5億円増) 過年度損益修正損(時間外勤務手当の追給)によるもの